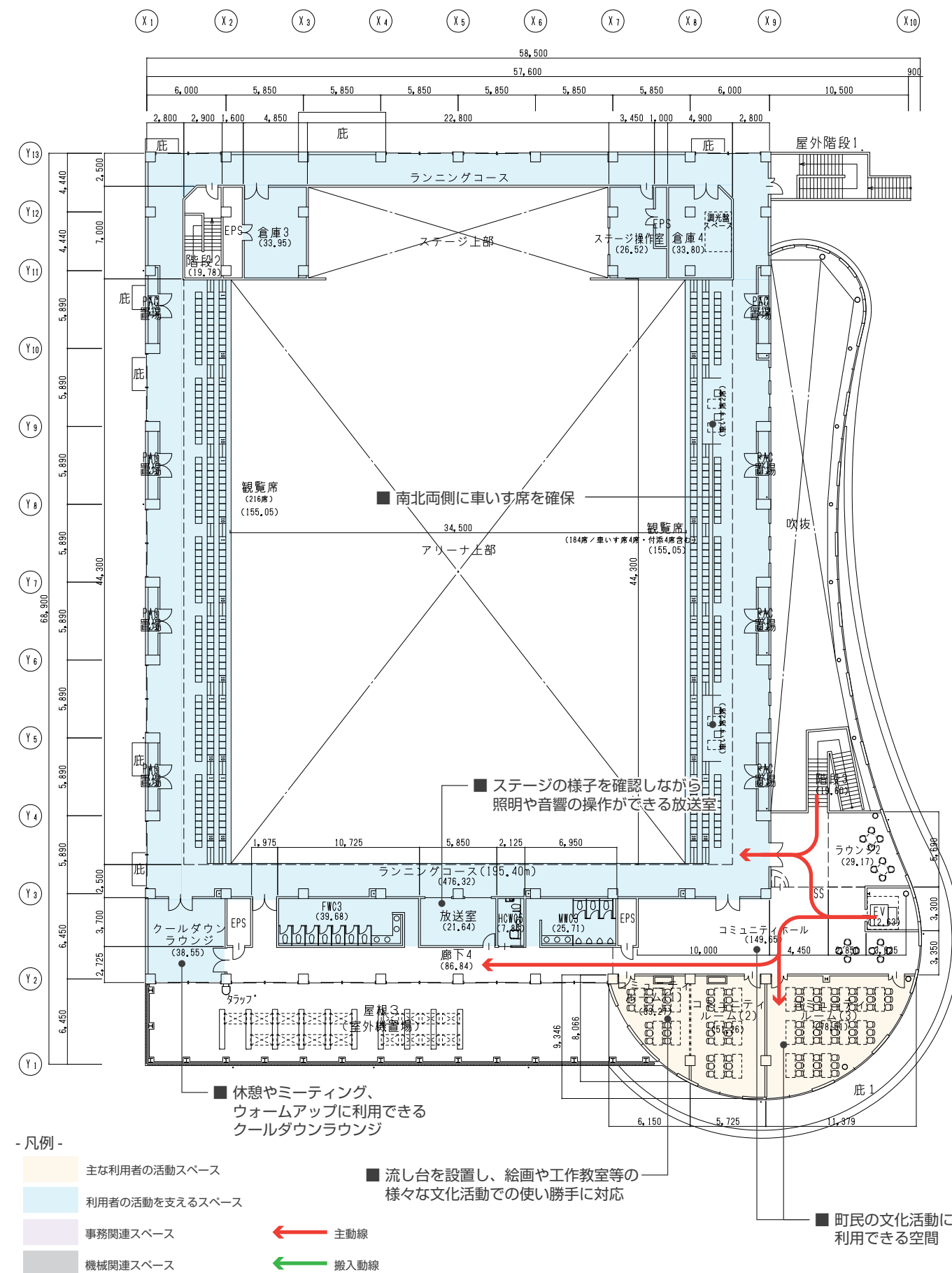


2) 2階平面計画・内部動線計画

- ・メインの階段やEV（エレベーター）から2階に上がった場所に、コミュニティホールとコミュニティルーム3室を配置し、町民の文化活動等に利用できる計画とします。
- ・コミュニティホールは2階観覧席の客だまり空間としても機能する広さを確保した計画とします。
- ・コミュニティルームには流し台を設置し、絵画教室等も開催できる計画とします。
- ・コミュニティホール西側にはトイレを配置し、観覧席使用時にも十分配慮した器具数を備えたトイレの計画とします。
- ・アリーナ上部の東西面には固定式の観覧席400席を配置し、東側観覧席の南北それぞれに車いす使用者の観覧席を配置した計画とします。
- ・観覧席の外側には通路を兼用したランニングコースを配置し、スペースの有効利用を図ります。
- ・ランニングコース南西角にはクールダウンラウンジを配置し、休憩やミーティング、ウォームアップに利用できる計画とします。
- ・ステージが正面に見える位置に放送室を配置し、ステージの様子を確認しながら本格的な音響や照明の操作ができる計画とします。
- ・ステージ上部の両脇には倉庫を配置し、備蓄倉庫等として利用できる計画とします。
- ・避難用の階段は各所からの歩行距離のバランスに配慮し、屋内階段2か所、屋外階段を1か所、計3か所配置した計画とします。
- ・2階南側の屋根にはアリーナやまが玉ホール以外の小部屋の空調室外機を配置し、目隠しルーバーで囲って景観に配慮した計画とします。



5. 立面計画・外部仕上計画

計画概要

- ・ シンプルな矩形のボリュームが立ち上がるアリーナ部分に、開放的で柔らかな曲面の表情を持つまが玉ホール部分を組み合わせた、特徴的な外観デザイン計画とします。
- ・ まが玉ホール部分は、脊振の山々から流れる田手川の清らかな流れと緩やかに馴染みながら、東側の親水公園さらには敷地南東側まで一体となって包み込む開放的なデザインとします。
- ・ アリーナ部分はシンプルでコンパクトな形態とし、イニシャルコスト、ランニングコストともに負担の少ない計画とします。
- ・ まが玉ホール部分は開放的なガラス面としながら適度に壁を配置して、室内機能や日射制御、コストと両立した計画とします。
- ・ 建物正面となる南側立面は、まが玉ホールから続く玄関部分の開放的な表情と、事務室や多目的室、トレーニングルーム部分の機能的な表情を組み合わせたシンプルな構成とします。
- ・ 外部仕上は耐候性に配慮しながら、至近距離で目にする部分と離れた位置からしか見えない部分との間に仕様のメリハリを付け、コストを抑制した仕上計画とします。

